

6月7日（水）幼保小連携研修

～互いの教育・保育を理解し、設置類型・設置者・学校種を越えて、幼保小の先生が気軽に話し合える関係の一助として～

6月7日（水）午後3時から、市内の小学校・義務教育学校を会場として、幼保小連携研修を行いました。白梅学園大学 名誉教授 無藤 隆先生に、「幼児教育と小学校教育をつなぐ架け橋プログラムとは」という題でご講義をいただきました。

無藤先生から、幼保小の架け橋プログラムが目指すことや幼児教育について、小学校以降の学びの特徴の違いの他、カリキュラムを開発するためのヒントも多数いただきました。

- ・顔が見える関係をつくる。
- ・代表的な活動や単元、同種の活動（例えば栽培）に注目して見直す。
- ・互いの保育・授業参観により、やり方や考え方、子どもの学びの様子を参考にし取り入れる。（その後、説明を聞くとよい。教育・保育には流れがある。裏側で工夫しているところがすべて見えるとは限らない。）

「相模原市のすべての子どもに対して」というお言葉が力強く響きました。



無藤先生、ありがとうございました。

ご講義資料や行政説明資料も、園内・校内でも連携の参考にさせていただければと思います。

幼保小の架け橋カリキュラム作成シート ～ 今後も協議等でご活用ください ～



後半の協議では、テーマを「主体性」と設定しました。カリキュラム作成シートと付箋を使い、具体的な子どもの姿、その時の先生の関わり・環境構成・環境づくり、今後園や学校で大切にしていきたいことを書き、協議をしました。

この協議で出てきた姿、関わり方の工夫や環境構成、キーワードが、まさに地区ごとの子どもの姿の実態に合ったカリキュラムの基です。ぜひ、共有して持ち帰り、明日からの園や学校の教育・保育に取り入れて活かしていきましょう。

次回の代表者会では、この続きや、別のテーマで話し合ってみてはいかがでしょうか。

各地区で、子どもの姿を基に協議が行われました



共通の視点・話題の例

- ①期待する子供像 架け橋を通じてどのような子供を育てたいか
- ②遊びや学びのプロセス
- ③用で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等
- ④指導上の配慮事項 先生の関わり、環境の構成・環境づくり等
- ⑤子供の交流 交流を通じた学びを深めるため、各園・学校の年間の活動に、子供同士の交流をどのように位置付けていくか。
- ⑥家庭や地域との連携
- ⑦主体性
- ⑧子供の困り感
- ⑨交流
- ⑩接続期カリキュラム

設置類型・設置者・学校種を越えて、幼保小の先生が、気軽に話し合える関係を構築し、対話を大切にするとともに、主体的・対話的・深い学びの実現に向けて協働して取り組まします。

「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての学習者（幼児）」 文部科学省 全巻

当日は、小学校・義務教育学校の先生方と、200以上の公立・私立の幼稚園、保育所、認定こども園の先生方にご参加いただきました。小学校の先生方、会場の準備等ありがとうございました。また、園の先生方にもご協力をいただき、ありがとうございました。

